

令和5年11月21日

八戸市議会

議長 小屋敷 孝 様

観光文化スポーツ推進特別委員会

委員長 田名部 裕 美

視察実施報告書

本委員会は、次のとおり委員を派遣し、調査視察を実施したので、行政視察等実施要領第2（3）の規定により報告します。

- | | |
|------------|---|
| 1 日 時 | 令和5年10月9日（月）～10月11日（水） |
| 2 視察先・調査事項 | 香川県高松市
（1）アート瀬戸内（瀬戸内国際芸術祭）について
（2）屋島山上交流拠点施設「やしまーる」について |
| 3 調査結果概要 | 別紙のとおり |
| 4 派遣委員 | 田名部 裕 美
豊 田 美 好
前 田 由 美
石 橋 充 志
岡 田 英
伊 藤 圓 子 |

【委員会調査報告書】

委員会名	観光文化スポーツ推進特別委員会
派遣委員名	◎委員長：田名部 裕美 ◎副委員長：豊田 美好 ◎委員：前田 由美、石橋 充志、岡田 英、伊藤 圓子
日程	令和5年10月9日（月）から10月11日（水）まで
目的	アート瀬戸内（瀬戸内国際芸術祭）及び屋島山上交流拠点施設「やしまーる」の取組を視察し、当市の観光振興、文化芸術並びにスポーツ推進に係る施策の参考とするため。
視察先	香川県高松市（高松市役所、屋島山上交流拠点施設「やしまーる」）
視察概要	<p>調査事項1：アート瀬戸内（瀬戸内国際芸術祭）について</p> <p>(1)説明者 創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部 部長 次田 吉治 氏 文化芸術振興課 課長補佐 本多 広実 氏</p> <p>(2)概要</p> <p>①背景・目的</p> <p>西暦2000年に、過疎に悩んでいた日本でも有数の豪雪地帯である越後妻有（えちごつまり）地方で、地域に内在する様々な価値を、アートを媒介として掘り起こし、その魅力を高めて世界に発信し、地域再生の道筋を築いていこうとする、大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ」が開催された。以来、大地の芸術祭は3年ごとに開催され、地域の活性化に多大な効果をもたらしている。</p> <p>瀬戸内国際芸術祭は、この大地の芸術祭を参考に2010年に第1回目を開催したもので、大地の芸術祭が里山を舞台とするのに対し、瀬戸内国際芸術祭は里海である瀬戸内海の島々を中心として展開し、瀬戸内の魅力を全世界に発信し、サポーターや島外の人々の参加を得たイベントなどを通して、島々の生活に再び光を当て、元気再生の機会とし、瀬戸内地域の活性化を図ろうとするものである。</p> <p>その運営については、平成20年4月に設立された同芸術祭実行委員会において行われ、実行委員会には、香川県や会場となる高松市、直島町、土庄町、小豆島町をはじめ、大学や地元経済界も参加し、地域が一体となって事業の推進に取り組んだものである。</p> <p>②具体の取組</p> <p>第5回目の開催となった瀬戸内国際芸術祭2022は、これまでの芸術祭に引き続き、「海の復権」をテーマに、瀬戸内海の12の島々と2つの港周辺を舞台に、2022年4月14日から会期を春・夏・秋の3つに分けて計105日間開催した。コロナ禍での開催となったが、世界33の国と地域から188組のアーティストが参加し、「瀬戸内の里海・里山の隠れた資源の発掘と発信」という観点から、小豆島や屋島など様々なエリア</p>

で地域の自然や歴史、文化等に着目した作品やイベントを展開した。

芸術祭を支えるボランティアサポーター「こえび隊」には、多くの人が作品制作の補助や作品受付などに参加し、「企業・団体ボランティアサポーター」としても、県内外から大勢の方々が参加し、地域住民や来場者との交流を行った。

会場の島々では、アーティストとの協働による作品の制作や受付、地域の特色を活かした食の提供、港での島を挙げての温かい出迎え、見送りなどに地域の方々が大勢参加し、一緒になって芸術祭を盛り上げていただくなど、地域の活性化や再生につながる取組が行われた。

市が整備した瀬戸内国際芸術祭の作品としては、2010年において、男木島の男木港に男木交流館を整備した。2013年においては、市民プールのリニューアル時に作品を設置したほか、現代源平屋島合戦絵巻―源氏軍と平氏軍が行軍と合戦を行う現代版「屋島の戦」を実施した。また、“瀬戸の都・高松”石彫トリエンナーレ2015の作品「銀行家、看護師、探偵、弁護士」を高松港周辺に設置し、芸術祭の作品に位置付けた。2016においては、屋島山上に「hi8way」、あじ竜王山公園に「Watch Tower」（腕時計を模した展望台）を制作・設置した。2022において、屋島山上交流拠点施設「やしまーる」と、施設内にパノラマアート「屋島での夜の夢」を整備した。



調査事項2：屋島山上交流拠点施設「やしまーる」について

(1)説明者 創造都市推進局 文化・観光・スポーツ部

観光交流課観光エリア振興室 室長 南部 隆之 氏
室長補佐 美濃 吉広 氏

(2)概要

①背景・目的

人々が集まり、くつろぎ、自然や歴史、観光など、屋島の魅力を余すことなく知ることができる、文化観光地「屋島」における来訪者の拠点となるとともに、観光的な側面と文化的な側面を合わせ持つ「屋島」の情報発信拠点となる施設である。

屋島及び周辺地域の自然、歴史、文化等の魅力を広く発信、多様な地域資源を活用した様々な交流及び学習の機会、憩いと触れ合いの場を提供、屋島への観光客及び市民の来訪を促し、本市の観光の振興及び文化の向上・発展に寄与することを設置目的としている。

②具体の取組

○パノラマ展示室展示作品「屋島での夜の夢」の整備…

設定としては、屋島を訪れた主人公が、観光で屋島の名所を巡ったその夜に見た夢の時空間を超えた戦いのドラマを、パノラマ館として制作したもの。

本作品は、平家物語の無常観をコンセプトに、平安時代末期、日本各地で繰り広げられた、源平合戦と呼ばれる治承・寿永の乱の屋島の戦いから発想している。

自然界や人間界の様々な時空間のドラマを複合的に構成し、縦約5メートル、横約40メートルの1枚の絵画、及びその前面に設置したジオラマによって、これらを壮大なドラマとして収め、全体として現代にも通じる、人間の戦いと自然の脅威、そして、無常観を表現している。朝、昼、夜の一日の時間の流れの中での場面を、約180度の円形の会場に描き、ドラマチックな物語に仕上げた、パノラマ館再現プロジェクトである。

※パノラマ館とは…

円筒形の建築構造の場内に、遠近法を用いて描かれた絵画と、その近景の一部をオブジェとして床に配した、だまし絵を発展させた芸術的な空間であり、中央に造られた物見台から眺めて体験するというもので、絵画と造形物、照明効果による光の巧みな効果によって、あたかも自分が実景に取り囲まれているような疑似効果を作り出す空間装置のこと。

○飲食・物品販売スペースの整備…

屋島の自然や景観を楽しみながら、食事や買い物を楽しめるスペース。この拠点施設でしか購入できないユニークな商品や、特産品等を展開、販売する。来訪者が休息し、くつろぎ、癒される空間。

○展望スペースの整備…

瀬戸内海の多島美や高松市街地、讃岐平野が眼前に広がり、獅子の霊巖から吹き抜ける風を感じながら、美しい景観を開放感のある展望テラスから一望できるスペース。また、夕刻になれば、「日本の夕陽100選」「日本夜景100選」にも選ばれた夕夜景を満喫できる。

○ローカル展示スペースの整備…

文化観光情報の展示スペースで、屋島の歴史や自然等の情報を発信し、来訪者が屋島の特性や魅力、価値、楽しみ方等を学び、知り、感じることができるスペース。



所 感	<p>当委員会では香川県高松市に伺い、瀬戸内国際芸術祭 2022 年の夏会期の展示作品でもある“やしまーる”を視察させて頂いた。</p> <p>瀬戸内国際芸術祭は島の高齢化を課題とし、美しい離島に観光客を呼び込むことを目的に『海の復権』をテーマに島×アートで開催されていた。</p> <p>八戸市においても種差海岸という風光明媚な国立公園と八戸市美術館を軸としたアートのまちづくりも掲げているので、海とアートという共通点を通じて、観光資源になり当市で生かせればと参考にさせて頂いた。</p> <p>この芸術祭は福武財団というベネッセコーポレーションを運営する財団が大島で小中学生を対象にしたサマースクールを実施していたことから、この芸術祭にも 2 億円規模と大きくバックアップをしており、民間の企業に支えられているということも世界から観光客が訪れるイベントとして認可されている要因であった。</p> <p>また、里山を舞台とした『大地の芸術祭』をプロデュースし注目された北川フラム氏が、瀬戸内海の島々をプロデュースし、それぞれの島でアート作品が展示されていてもコンセプトが一貫してブランド力が高まったということであった。</p> <p>春、夏、秋と 3 シーズンに分かれて芸術祭が行われているというので、機会があれば座学だけではなく実際に見てみたいと思う。</p> <p>八戸市美術館でも今後県内 5 つの美術館でアートプロジェクトを行う予定があるので、どんな連携をはかるのか比べてみたいと思う。</p> <p>“やしまーる”はあいにく休館日で中に入ることはできなかったが、へびのようなアーチ型でガラス張りの建築物はまさに芸術作品であった。</p> <p>以前は国立公園で観光地であった屋島を復興させるため屋島活性化基本構想が策定され、屋島山上に相応しいアート作品が建設された。</p> <p>驚くべきことは委託料年間 1500 万を 10 年契約とし、その後 500 万ずつ減額し、最後は委託料をゼロにするという方針であった。駐車場収入や“やしまーる”をスタジオにし、元々事業をしていたテレビショッピング等をして稼いで自ら収入を得ていくということであった。</p> <p>市では光熱水費の増大により維持管理費が増え、それに伴い委託料も増額していくという考え方であったが、高松市の委託料の考え方も大変参考になった。</p>
-----	---